

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 綴文

いろんな考えがあるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 521

2019年7月

晩刊

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 「あの山の向こうに ⑧2」 2
- 「古琉球」(2) 4
- 古便利から 7
- 鳴虫山 男体山 11
- 秋葉街道自転車旅 12
- 九十九里浜歩き 16
- 三浦ハイク「小網川」辰巳郎 20
- 辰巳茅子様 21
- 会津の山旅「博士山」 22
- 関西生コンにカンパ 24
- ゲノム編集食品とは? 25
- ナーセリー倉澤 26
- け・い・じ・ばん *

税金は過去最高に。

1990年度 2018年度
 税金総額 60兆円 → 60兆3千億円
 して、その内訳は、
 所得税 6兆円減、法人税 6兆円減
 消費税 13兆円増

なんでそうなったの(税率)

	90年度	18年度
所得税(最高)	50%	45%
法人税(〃)	37.5%	23.2%
消費税(均)	3%	8%

7月4日現在の
会員数 247名

この見本誌を
「読」
2019年
郵便局



題 字 故 佐村隆英和尚 (序)

カット: 泉ゆきをさん(にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、

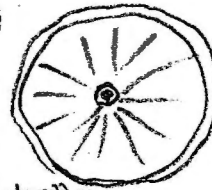
Greetings
Flowers in Daily Life

三泊三日 秋葉街道自転車旅

「秋葉街道を自転車で」といい出したのが数年前。一向に進まなかったが、やっと実行することになった。

出発前、いつになく不安感があった。“理屈はあとから貨車で来る”と言ったのは、故・金丸信。やめたくなる理由はいくらでもあった。衰えを感じる体力。起伏の多いコース。3~4日、走り続けられるか。ここ3年ほど放ったらかしのクロスバイク。果たして動いてくれるか。タイヤやチューブはダメになっていないか。うまく分解・組み立てができるか。天候はどうか……等々、心配が次々襲ってきた。

出発二日前の5月10日、放置していた自転車を分解しようとした。ところが、前輪がはずれない。車輪の中心にある芯棒が錆びついてネジが動かないのだ。ペンチで動かそうとしたが、ビクともしない。諦めて自転車屋に持ちこんだ。ところが、ご主人は出かけている。この日は土曜日。翌日曜はお休みだ。ここさほ諦めかけた。



夕方、もう一度行ってみると、戻っていた。しかし、ご主人がやっぴダメ。ついにワイヤカッターで切断し、代わりの芯棒を入れてくれた。ついでに空気を入れ、輪行袋に入れるのを手伝ってもらった。あとは、うまく組み立てられるかだ。

5月13日(月、くも)。ほんだ駅6:01発の二番電車に遠慮しいしいのる。千葉駅6:38発「あずさ3号」、一日に一本だけある中央線直通の特急だ。荷物スペースに自転車を置き、ひと安心。今春から運行を始めた新型あずさは全車指定席。頭のランプの色で空席か否かわかるようになっている。途中、原田さんと合流。隣りが空席なので並んで座る。

9:52茅野駅着。案の定組み立てに手間どり、出発は11時に。市街地をぬけ小さな橋を渡ると、杖突峠まで長い登りが続く。ギアを低速に落としペダルを踏んで登ろうとしたが、すぐに諦めた。道は長丁場、無理をせず自転車を押して歩く。

足が重い。衰えもあるが考えてみると無理しない。5日前の5月8日は、日光「鳩虫山」で標高差約600mの登高。翌9日は男体山で標高差1200mの登り降り。帰宅翌日(11日)は午前テニス、午後畑。出発前日(12日)は午前原稿作り、午後畑。そしてこの日だ。疲れが溜まっているのだろう。



ようやく辿りついた峠の茶屋で昼食(パン)。茅野市や八ヶ岳の眺めがよい。峠からは一気の下りだ。その壮快感はスキーの滑降に匹敵する。しかし、登りもそうだが、下りでも差が出る。ぼくの自転車はパンクしないよう(パンクしたら修理できない)、タイヤの断面積が英ちゃんの3倍ほどある。太いと、転がり抵抗が大きい。ヨーイドンで坂道エコーがずに下ると、100mで5mほどの差が出る。おまけにぼくは英ちゃんのように大胆ではない。時速が50~60kmにもなると、曲がり角でついブレーキをかける。差が開いても姿が見えるうちはよいが、見えない所で分かれ道があった……。そこで、「オー、奔ってくれエ」と叫ぶ。三日間で17回は叫んだろう。



下った先が格で有名な高遠町。そこからまた分杭峠への長い登りが始まる。二つの峠はいずれも標高差が約600mあるという。5日前の夜、日光の宿に鈴木秀人さんから電話がかかってきた。昨年同じコースを走った経験から「原田さんは大丈夫だろうけど、厚正さんはムリだよ」と、三度もくり返す。いまや、秀人さんを見返してやるという気持ちだけが支えた。



分杭峠は近年「気場」あるいは「ゼロ磁場」として人気があるそうだが、鈍感なぼくは何も感じない。

悪いことに、峠に着く頃ほど小雨が降ってきた。一週間前の予報では二日目(14日)に雨マークが付いていたが、どうやら悪い方に傾いているようだ。うすいウィンドブレーカーをTシャツの上に羽織って下り始める。ぬれた体に高速の風が当たり、たちまち冷えてくる。ハンドルを握る手がこわばり、足がツリかけたところで、今夜の宿「おより亭」(T0265-39-281)に着いた。英ちゃんは大鹿村の鹿塩温泉に泊まろうと宿を当たってくれたが、ここいかなかったそうだ。

民宿は、年輩のご夫婦が経営している。本来、神奈川県に住んでいたが、ご主人が狩猟で何度もここに通ううち気に入り、古民家を譲り受けて自ら改造したという。今では大鹿村猟友会の副会長で村会議員も二期目に。奥さんは「郡上踊り」の免許を持つそうだ。手送り感一杯の岩風呂で、表面は熱いが底は冷たい湯につかり、囲炉裏をかんで夕食。炭火でシカ肉やイワナ、野菜を焼いて頂いた。

5月14日(火)。くもり。午後雨の予報。天候を気づかい、朝食を早めてもらう。数日前、舟屋千づるさんからFaxが入り、「地蔵峠が崩落して通れないので、いったん天竜川まで下り、喬木(たけぎ)村から矢筈トンネルに上がり、「神楽の湯」に入浴して待っていて下さい。そこまで迎之に行きます」とあった。

そこで小遊川に沿って天竜川まで下る。道は狭く、リニア新幹線のトンネル

掘削の土砂を運ぶダンプカーが往きかひ、トンネルの中では路肩に寄って止まるほど、しばらく天竜川に沿って南下し、喬木村から矢筈トンネルを自指して長い登りが始まる。思いこに、予報より早く雨が降りだした。いつまでも続く登り坂。もうやだ。「3千丹あげる」と言われても、もう行かないぞ。

矢筈トンネルに続く高規格の「三遠南信道」の工事末端となる高架橋下に来ると、立て札に「矢筈トンネルは、125cc以下のバイク、自転車、歩行者は通行禁止」とあるではないか。なんたること。ここですっかり気持は萎んで、舟屋さんに助けを求めた。高架橋の下にいても、風が出てきて雨がかめる。

一時間近く待つ、舟屋さんの軽トラックと竹中礼子さんの車がやってきた。ありがたやありがたや。軽トラックに自転車2のせ、ぼくは舟屋さんの隣りに、英ちゃんも竹中さんの車にのる。

途中、上村(おみむら)の「かみ」でソバを食べ、「兵越(ひょうこし)峠」をこえて水窪に入る。武田信玄が川中島に向かう時に通ったという「兵越峠」。いまは毎年、信州側と遠州側の綱引きが行われ、勝った方が/m相手側に国境(仮想)を動かすという行事で知られる。

おなじみの「田楽の里」に送ってもらい、お二人はいったん帰宅。ぼくたちは大きな木の浴槽に湯を張る。しかし時間がかかると、もったいないのとで、20cmほど溜まったところで腹這いになってあたたまる。

16時すぎ、昔乙女4名が、てんでに料理を携えてやってくる。ウド、フキ、ワラビ、タケノコ、ミョウガタケ、手作りの刺身(メ)にやき、落花生の煮豆、キヌウリもみなど。舟屋さんは「草(野草)ばかり」と謙遜するが、どうして、ハンバーグ、刺身(カツオ、マグロ)に肉じゃがと大ご馳走だ。舟屋さん拵の喜久水を頂きながら談笑、ご馳走さまでした。外は雨。

5月15日(水)、晴。やっと天気がよくなかった。昨夜は大バきれなかつた熊谷道子さんの味ごはん(きり)、そばまんじゅうなどを食べ、7:55出発。けた気持のよい朝、天竜川に沿ったゆるい下り。雲名橋で天竜川を渡り、気田川に沿って秋葉神社下社を自指す。気田川は天竜川の支流だが、上流にダムが無いから



しく、清流の名に恥じないよいい川だ。国際アユ釣大会が開かれたこともある。

日本には約2800基のダムがあるそうだ。ダムとは、基礎地盤から堤頂までの高さが15m以上のものをいい、それ以下は堰と呼ぶ。日本のダムの大半が竣工後60年を超え、100年以上も約7%ある。ダムは利便の反面、健全な水環境や自然生態系を破壊する「ダム公害」も引き起こす。土砂やヘドロの堆積も進行し、上流域に洪水をもたらすこともある。

アメリカでは、1976年のダム決壊事故以来「ダム撤去」が進み、すでに1200以上が撤去された。日本では、2018年に球磨川水系の「荒瀬ダム」が撤去されたらしい。(矢間秀次郎氏「週刊金曜日」1234号による)

下社の手前に自転車を置き、上社を目指して登り始める。歩きやすい道で標高差約700m。正午に上社に到着。新しい建物だ。浜松市の方面がかすんで見える。

この日は、正士さん宅に泊めてもらう予定。山上から電話すると、正士さんは午前中「花咲庄」でソバ打ち。これから春野町へ行き、「元氣里山」のグループとお茶の刈り取りという。春野町のどこかで落ちおうという。しかしほくらの方が早そうなので先に行くことにする。

国道から分かれて旧豊岡村に夜ける道に入る。^(ひすがり)下百古里から杉林の中を登り、最後の峠に着く。ここから先は向登り通った道だ。なんとなくグッとくる。万瀬(まんせ)だ! 虫生(むしめ)だ! 火の見樫だ! 鐘科者だ! 分枝跡だ! とじの中で叫びながら、16:23ゴール。

お母さんに挨拶し、自転車を分解して袋に入れ、34ワエを使い、正士さん待つ。英ちゃんが連絡したらしく、久米さんも見た。

団炉裏を囲んで4名で夕食。ソバも頂き、寝袋で寝る。

5月16日(木)、晴。二人に見送られ、9:07天浜線にのる。ホームで手を振る二人の姿が見えなくなるまで、目を凝らす。

掛川で「こだま」にのり、品川で英ちゃんと別れる。いろいろお世話になりました。明日からは、畑で里子ちゃんが待ってるぞ!

次は、歩いてみたいね。

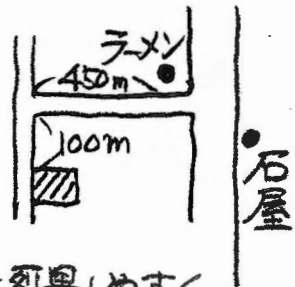


ナーセリー倉澤

原田英治さんと、4年ぶりに倉澤元雄さんのブルーベリー園を訪ねた。

7月10日、北総線「小室」駅で英ちゃんの車に拾ってもらい園へ。(右図は、間近になってのもの)

ご夫妻に迎えられる、説明を受けながら熟した実を試食しながら小カゴに摘み取る。何十種もあるそうで、終りに近い樹からこれかという樹までさまざまだ。



倉さんによると、今年は雨が多く雨に当たると熟した実は裂果しやすくなるそうだ。生育も遅れ、熟期が重なる状態も起きているそうだ。

おまけに園内の草刈り、野菜畑の草刈りに追われて大変だという。わかるなあ。ぼくもこの時期、暇さであれば畑で草刈り。夕方、腰を上げるのも苦痛となる。園内の作業で人手が足りないときは、喜んで手伝いに行くよ。 とよは

ブルーベリーの開園は、8月中旬頃まで。場所は、白井(しらい)市十倉-31-2-2。「東陽-ラーメン」のわきの道を450m進み、左折して100m。(P)2台分有り。

価格は250g当たり600円だが、客が自分で摘みとった分は250g当たり100円引き。入園料無料。食べ放題ではないが、サービス有り。入場は午前中。要予約。連絡は、携帯電話 090-6948-9808、自宅 047-442-8288 ホームページ <http://climax-gen.com/> ナーセリー倉澤(日本ブルーベリー協会会員)。

- ローカル線にのるう。
- 東北・福島へ行こう。
- なるべく平日に。



山中圭子さん
(ザ・シニアジャパン)

◆ 山仕事を楽しむ会 ◆

- ① 7月22(月)~24日
- ② 8月25(日)~27日
- ③ 9月8(日)~10日
- ④ 10月14(日)~16日
- ⑤ 11月15(金)~17日



安東明子さん
(吾妻橋ゆらし療養院)

◆ 三浦ハイキング ◆

- 8月6日(火)、三浦海岸花火大会。
- 海水浴。
詳しくは、7月末発行予定の8月号に。



ハンセン病家族訴訟判決に控訴しないと安倍首相表明。



7月6日の街頭演説で安倍首相は、「民主党の枝野さん」と6回も「言い間違え」。悪質な選挙演説だけでなく、一國のリーダーとしての品格が問題だ。